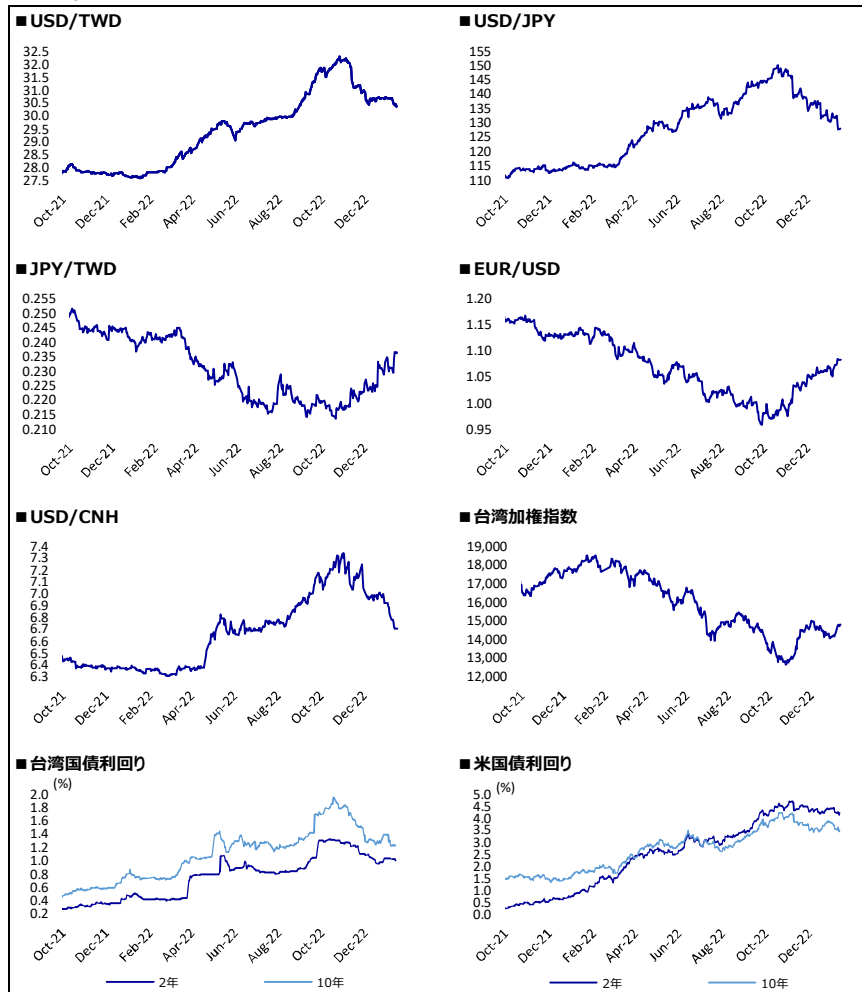


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初1/9は30.620でオープン後、前週末の米雇用統計を受けたドル安の流れや、台湾株が反発したこともあり、ドル台湾ドルは下落。しかし、節目の30.5が意識されてか、30.5は割り込まなかった。1/10は30.5を割り込み、30.41付近まで下落したが、輸入企業のドル買いもあり、底堅かった。1/11も底堅く推移したが、1/12は台湾株安もあり、30.45付近まで戻した。しかし、1/13は台湾株がギャップアップしてオープンすると一時30.310まで下落。その後は輸入企業等のドル買い需要もあり、最終的に先週比1.0%ドル安台湾ドル高の30.387で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は889.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は大幅下落。週初1/9は131.98でオープン後、前週末の米雇用統計を受けて利上げ幅が縮小されるとの見方等から131円台前半まで下落。しかし、東京休場の中、下値を追う展開となはならず、132円台半ばまで上昇したが、米金利が低下すると、131円台半ばまで戻した。1/10は材料難の中、132円ちようどを挟んでの推移となった。パウエルFRB議長の講演が予定されており、警戒感から上昇する場面もみられたが、目新しい発言はなく、レンジでの推移となった。1/11は特段材料のない中、一時132.87まで上昇したが、翌日に米12月CPIを控えており、132円台半ばで小動きとなった。1/12は日銀が1月会合で大規模緩和の副作用を点検するとの報道を受けて131円台後半に下落。その後も米金利の低下を背景に130円台半ばまで下落。注目の米12月CPIは市場予想通り伸びが鈍化したことに加え、FRB高官からのタカ派姿勢を弱める発言や米30年債の入札が好調であったことから米長期金利が低下するとドル円は128円台後半まで下落。1/13は日本10年債の利回りがYCCの許容変動上限0.50%を一時的に超える等、日銀の金融政策変更への思惑が強まる中、円買いが優勢になると128円台前半まで下落。さらに、ミシガン大消費者信頼感指数の1年後のインフレ期待が予想を下回ったこともあり、一時127.46をつけ、最終的に先週比3.2%ドル安円高の127.86で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.000-30.450
今週は上値が重い展開を見込む。米国の利上げペースが緩やかになるとの見方が強まる中、全面的に株が堅調に推移する一方、ドルは軟調に推移しており、台湾ドル高の流れとなるであろう。なお、春節前に実需筋の動向にも注目したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：125.00-132.00
今週も荒い値動きを見込む。日銀の金融政策決定会合を控えており、日銀の動向が注目されている。既に日銀が政策変更することへ織り込む動きがみられており、日銀が緩和策を維持するスタンスを示した際には戻す動きにも警戒したい。

今週の予定

1/9 (MON)	米国休場
1/10 (TUE)	米1月ニューヨーク連銀製造業景気指数
1/11 (WED)	日銀金融政策決定会合、台湾Q4GDP、台湾12月失業率、米12月PPI、米12月小売売上高、米12月鉱工業生産
1/12 (THU)	米12月住宅着工・建設許可件数、米1月フィラデルフィア連銀業況指数
1/13 (FRI)	台湾祝日、米12月中古住宅販売件数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。